

未来の屋内遊び場 を考える

先進事例（東根市・天童市）の調査から
見えてきた、平川市が目指す新しいカタチ

子どもが育ち、親がほっとできる場所へ



平川市に最適な施設をつくるため、 山形県の2つの成功事例を視察しました

成功事例の比較



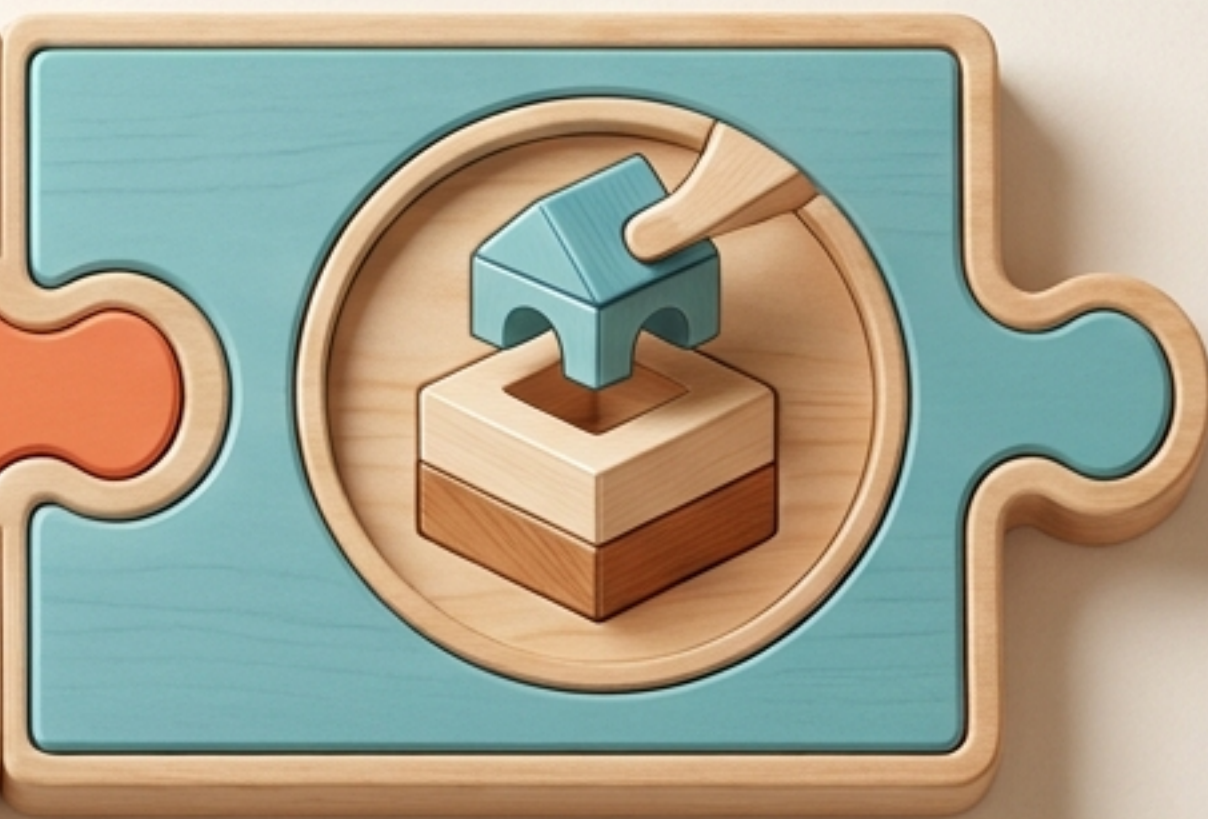
東根市「けやきホール」と天童市「げんキッズ」。どちらも子どもの成長と子育て家庭を支える県外の先進施設です。

重点の違いを発見



2つの施設は、それぞれ「何を一番大切にしているか」というアプローチが大きく異なりました。

平川市独自のモデル構築へ



両者の良さを抽出し、平川市の市民ニーズに合った「新しいカタチ」を検討します。

2つの施設には、それぞれ異なる「正解」がありました



東根市「けやきホール」
「子どもが自ら遊びを生み出す」

【遊育 (ゆういく)】



天童市「げんキッズ」
「遊びと保護者支援を一体化」

【家族の生活支援】

どちらも素晴らしい施設ですが、「施設の重点 (一番大切にしていること)」に明確な違いがあります。

東根市「けやきホール」の特徴：子どもの主体性を引き出す【遊育】



余白を残す - おもちゃを増やしすぎず、自由に動き、遊びを考えられ空間。光や景色、音も遊びの要素に。

段階的な挑戦 - はしごの角度やネットの経路に難易度の違いを設け、「次はここまで」という達成感を促す。



大人の関わり方：職員は遊び方を一方的に教えるのではなく、見守りながら新しい遊びの仕掛けづくりを行い、子どもの「発想と挑戦」を支えます。

天童市「げんキッズ」の特徴：親子を総合的に支える【家族の生活支援】

多様な遊びの空間
(滑り台、クライミング、
トランポリン等)

年齢別の安心 -

乳幼児エリアと活動エリアをしっかり分類し、発達に合った運動を安全に提供。

保護者のリフレッシュ -

ヨガや骨盤ケア等の講座を開催。
親自身の休息や気分転換をサポート。

一時預かり・相談 -

登録制の一時預かりを実施し、
保護者の用事や講座参加を支援。



大人の関わり方：職員は安全管理（出入口確認や見守り）に加え、保護者との会話、育児相談へのつなぎ、一時預かりなど多角的に家族をケアします。

比較①：遊び方と成長へのアプローチ



身近な素材や空間を生かし、自分で遊び方を工夫して生み出す。

遊びのつくり方



用意された多様な遊具の中から、自分の好きなものを選ぶ。



「昨日できなかった高さ」に挑戦し、自ら成長を実感させる。

成長を促す工夫



年齢・発達に合った運動を、安全かつ活動的に楽しむ。

職員による絵本の空間変更や、身近な素材を使った遊びの工夫。

魅力を保つ取組

日常点検や専門的メンテナンスに加え、不定期な小規模リニューアルを実施。

比較②：利用のルールと運営体制



幅広い年代。受付条件を満たせば、小学生以上は子ども単独での利用が可能。

利用対象と
子どもだけの利用



小学校6年生まで。
保護者の同伴が基本（一時預かりサービスは別途あり）。



運営：NPO法人
役割：子どもの自発的な活動のサポートと見守り。
（※ホール内基本配置：平日3名/休日5名）

運営主体と役割



運営：民間
安全管理、保護者対応、一時預かり等。
（※施設全体の管理スタッフ：30名）

運営：NPO法人
役割：子どもの自発的な活動のサポートと見守り。
（※ホール内基本配置：平日3名/休日5名）

運営主体と役割

運営：民間企業（東京ドームグループ）
役割：安全管理、保護者対応、一時預かり等。
（※施設全体の管理スタッフ：30名）

※両施設はサービス範囲が異なるため、スタッフ数による単純な運営効率の比較はできません。

施設が愛され続ける理由：「なぜ、何度もここを訪れるのか？」

子どもが 繰り返し来る意味

同じ遊具でも遊び方を変え、
以前できなかった高さや経路に
挑戦することで、「自分の
成長を実感できるから」。

保護者が 来館する意味

子どもの遊びを保障しながら、
親自身が交流や相談を通じ、
「休息し、必要な支援を
受けられるから」。

平川市が目指すべきは、この両方の「訪れる意味」を満たす場所です。

平川市が目指すカタチ：2つの魅力の「ハイブリッド」



理想の施設を実現するために、これから設計していく4つの柱



この4つの柱を基に、平川市民の皆様に長く愛される施設づくりを進めていきます。